

# 板垣退助の勤皇精神

—国会を創った男・板垣退助の事績—

(令和8年5月30日)

一般社団法人板垣退助先生顕彰会 理事長高岡功太郎

- 1.板垣退助という男は「勤皇」という軸において生涯一度もブレたことがない。これが板垣精神の根幹である。…にも拘わらず板垣という人物を語る時「自由」という軸にシフトして語り、「板垣はある時は自由について語っているが、その時、同時に建軍や徴兵制を推進している。板垣は矛盾に満ちた男だ」と評する人がいる。
- 2.板垣にとって「自由」とは手段であって目的ではない。ましてその「自由」とは何でもやって良い自由ではなく「愛国心をもって天下国家を語る自由」のことである。(※すなわち国土防衛が担保された上での自由であり、「自由」を得るためには「義務」を負うのは当然である。板垣自身がそう記している)
- 3.板垣退助の名は良く知られているが、その事績を語れる人は少ない。板垣の遺著『立國の大本』<sup>りっこく たいほん</sup>はGHQによって焚書指定され、所謂東京裁判史観に基づく内容に、教科書、公共放送が遵ったまま現在に至る。その為、偏向した内容の評論が蔓延し由々しき事態にある。「板垣死すとも自由は死せず」の言葉は、白い髭の老人が刺されて死んだ時に発した最期の言葉だと思ふ人まで出る始末である。(徳川慶喜と同年齢)
- 4.武力討幕と自由民権は矛盾しない。板垣は幕末期に「君側の奸を排すべき」と考え戊辰戦争で旧幕府派を討滅した。参議となり国政に参画したが、明治6年(1873)征韓論争に敗れると征韓派勢力を結集。「君側の奸を排して、大君の大御心を体现すべき」として、明治7年(1874)1月12日、愛国公党を結成。1月17日『民撰議院設立建白書』を左院に提出し、東アジアで初となる国会開設の請願を行っている。
- 5.板垣家の家訓(乾家の家訓)、①畳の上で死するを恥とせよ。②出る杭は打たれるが打ちようのない大きい杭は打たれない。③常在戦場など。板垣退助が家族に残した格言。「選挙に出たらどうだと言ってくる人物がいたらその人物の言葉を信用するな(鵜呑みにするな)」、「大事を成さんとする時は、必ず小さな邪魔が入る」、「人に物事を相談する前には必ず腹案(自分の案)を持て」など。
- 6.板垣の功績。①薩土討幕の密約を結び維新回天を惹起したこと。→土佐藩の軍制刷新・近代式練兵を行う。→討幕軍となり戊辰戦争で勝利。→御親兵となり近衛師団となる。→近代日本陸軍となる。→明治38年に【日本陸軍創設功労者】として陸軍省より正式に表彰され、薨去後大正天皇より誄詞を賜う。②『億兆安撫国威宣揚御宸翰』<sup>おくちょうあんぶこくいきせんやうのごしんかん</sup>ならびに『五箇条御誓文』の意を拝し、国会開設活動(自由民権運動)を行う。「広く会議を興し万機公論に決すべし、上下心を一にして盛に経綸を行ふべし、官武一途庶民に至る迄、各其志を遂げ、人心をして倦まざらしめん事を要す、旧来の陋習を破り天地の公道に基づくべし、智識を世界に求め大に皇基を振起すべし」→【国会を開設】この時に創った日本初の政治政党「愛国公党」ならびに「自由党」が現在の「自由民主党」の前身となる。③北海道の領土売却を阻止し日本の領土を保全した。④相撲(国技館の創設)、居合(無双直傳英信流)、競馬(軍馬育成のため)を奨励。⑤傷痍軍人、女性受刑者の獄中出産した児童の育成、視覚障害者の自立支援など文化面での貢献。→明治憲法発布50年の記念に憲政功労者として国会に銅像が建立された。⑥その他、後藤象二郎の銅像建立(戦時供出)、坂本龍馬を顕彰する

石碑建立(桂浜に現存、坂本龍馬の銅像の存在しなかった時代)、明治天皇崩御の時、神社ならびに銅像の建立を発議→明治神宮、銅像は岐阜東照宮などに存在。戊辰戦争の敵側・会津藩の名誉回復に尽力。台湾議会の創設支援など。

## 7. 維新回天の精神（薩土討幕の密約と薩土盟約の違いを説明できますか？）

### ●薩土討幕の密約→近代式練兵→鳥羽伏見の合戦→甲州勝沼→日光→会津

中岡慎太郎の仲介によって、慶応3年5月21日（1867年6月23日）に京都の小松清廉邸で、薩摩藩の西郷隆盛・吉井友実・小松清廉らと、土佐藩の板垣退助・谷干城・毛利恭助・中岡慎太郎らが結んだ武力討幕による回天維新のための密約。「薩土密約」とも。

### ●薩土盟約 ※「薩土密約」も「薩土盟約」も【薩土同盟】と称される為、混同に注意

坂本龍馬の仲介によって、慶応3年6月22日（1867年7月23日）に京都の三本木の料亭で、薩摩藩の西郷隆盛・小松清廉・大久保利通らと、土佐藩の後藤象二郎・寺村道成・真辺正心・福岡孝弟らが結んだ大政奉還のための盟約。「薩土提携」ともいう。

※鳥羽伏見合戦で土佐藩士が参戦したのは板垣の**薩土討幕の密約**の履行。これが歴史を変えた。

（板垣が初陣で戦った相手を知っていますか？）

## 8. 板垣退助を標的とした暗殺未遂事件は何回あったか？（1回だけだったと思いませんか？）

●**文久3年乾退助暗殺未遂事件** - 文久3年（1863）、京都で土佐勤王党が乾退助（板垣）の暗殺を企てた事件。前年に起きた広田章次暗殺事件と、坂本瀬平刃傷事件に憂慮し、山内容堂が土佐勤王党を遠ざけ乾退助に命じて「上土勤王隊」を組織させたことに対する危機感が原因。同年1月、池内大助が暗殺されたのち乾退助が標的とされた。しかし、4月に乾が失脚し、八月十八日の政変の後、中岡慎太郎が乾退助に会見して交誼を結ぶ。薩土討幕の密約をへて両者は合併し土格別撰隊が組織され、のち土佐藩迅衝隊として戊辰戦争をともに戦う同志となった。 - 退助 27 歳

●**明治元年板垣退助暗殺未遂事件** - 明治元年閏4月1日（1868年5月22日）、戊辰戦争時日光東照宮での談判に際し、光栄坊に潜伏した旧幕側残置諜者10名が東山道総督府参謀（土佐藩迅衝隊総督）である板垣退助の暗殺を企てた事件。（犯人：6名死亡、3名逃亡、1名捕縛） - 退助 32 歳

●**板垣退助岐阜遭難事件** - 明治15年（1882）4月6日に岐阜の神道中教院門前で、相原尚褰が板垣退助の暗殺を謀った事件。「**板垣死すとも自由は死せず**」の言葉で知られる。 - 退助 46 歳

（※この時、板垣はどんな演説をしたか知っていますか？）

●**明治17年板垣退助暗殺未遂事件** - 明治17年（1884）、東京府芝区金杉川口町24番地（現・東京都港区芝1丁目2番地）の東京板垣邸内で刺客が板垣退助の暗殺を謀った事件。 - 退助 48 歳

●**明治24年板垣退助暗殺未遂事件** - 明治24年（1891）10月20日、東京府神田区神田錦町（現・東京都千代田区神田錦町3丁目3番地 神田税務署）の錦輝館で行われた自由党演説会において板垣退助が『政治の要領』と題する演説を行っている最中、ナイフを所持していた富山県平民・金山米次郎（史党系の青年義勇団所属）が壇上に飛び上がり板垣退助の暗殺を謀った事件。犯人はその場で逮捕され小川署

に連行されている。 - 退助 54 歳

●明治 25 年板垣退助暗殺未遂事件 - 明治 25 年（1892）2 月 12 日、兵庫県神戸市三ノ宮の路上（現・神戸元町）踏切前において鷺田卯蔵が拳銃を用いて板垣退助の暗殺を謀った事件。 - 退助 56 歳

## 9. 日本領土が他国に売却されるのを防ぐ

●板垣は母成峠<sup>ぼなりとうげ</sup>で進軍を阻む賊<sup>はば</sup>を猛戦して討破り、十六橋<sup>じゅうろくきょう</sup>を突破し、馳突<sup>ちとつ</sup>して会津城下に攻め下った…。敵は十六橋を壊して官軍の進路を阻もうとしたが、板垣らの進軍は予想以上に速く、8 月 22 日にはこの橋に辿り着き、日橋川を渡る。板垣は「会津城下<sup>おのれ</sup>を己<sup>おのづ</sup>の奥都城<sup>おくつぎ</sup>と思え、立ち止まる者は味方とて斬り捨てる。大小便も走りながらせよ」と命令を発して急ぐ。板垣が会津攻略を急いだ訳は？

●江戸で大村益次郎が発した指令では「枝を刈<sup>えだ</sup>って幹<sup>か</sup>を枯<sup>み</sup>らせ」というもの。しかし、『奈破翁戦記<sup>ナボレオン</sup>』を読んでいた板垣はこの作戦<sup>けねん</sup>に懸念<sup>フランス</sup>を示した。「仏国は強国なれども、しばしば雪山に敗<sup>ま</sup>けを知ると聞く。我等、薩土の兵もまた南国の育ちなれば、今は優勢たりといえど、奥羽の冬<sup>こ</sup>を越<sup>いかん</sup>すに如何…」と私見を述べ「幹<sup>みき</sup>を根本<sup>ねもと</sup>から斬<sup>き</sup>らば自<sup>おのづ</sup>と枝<sup>えだ</sup>も枯<sup>か</sup>れる」と返書し、本命の会津城攻略<sup>ま</sup>に的<sup>しほ</sup>を絞<sup>き</sup>った。薩摩、土佐の兵を御<sup>ぎよ</sup>する板垣は、長期戦となることを徹底して避けた。

●この時、軍資金に欠乏した会津藩主・松平容保<sup>かたもり</sup>と庄内藩主・酒井忠篤<sup>ただずみ</sup>は、ヘンリー・シュネル(日本名：平松武兵衛)という代理人を通してプロイセンに対し、蝦夷地<sup>そしやく</sup>を「99 年間の租借」すなわち、北海道の広大な土地を事実上、売却する提案をしていた<sup>1</sup>。戊辰戦争ではフランスが幕府に助力し、イギリスが薩摩に協力的であったものの欧州諸国はつとめて「局外中立」の立場を採りこの内戦を静観した。

●実質は欧州が全面的に加勢することで日本列島が欧州の代理戦争の舞台となることを避け、また勝った方と与<sup>くみ</sup>する打算、即ち「勝ち馬に乗る」思惑<sup>おもわく</sup>が欧州にあった。プロイセンの宰相・ビスマルクは日本の内戦に関し「局外中立」の立場から提案を一度は断ったが、三週間後に考えを改め「承諾書」を日本へ送った。プロイセンからの返書が届いたのは会津が落城して一週間後のことで、そのため、この契約は有耶

<sup>1</sup> 【プロイセン蝦夷地租借未遂事件】戊辰戦争の当時、江戸から指示を出していた大村益次郎は「枝を刈<sup>えだ</sup>って幹<sup>か</sup>を枯<sup>み</sup>らせ」これは「会津に与みする周辺の藩を先に攻略し会津を孤立させてから攻略せよ」との意味であった。会津攻めの総大将であった板垣退助は『ナボレオン戦記』を読んでいたので「フランスは強国なれど、しばしば雪山に負けを知ると聞く。我等南国（土佐・薩摩）の兵たれば、雪国の冬の来たる迄にこれを討たむ」と早期決戦を立案。薩藩の伊地知正治と合議して大村に「幹を断てば枝も自と枯れる」と伝令を返して激流の阿武隈川を渡り、母成峠を越え、十六橋を渡り、急ぎに急ぎ馳突して会津城下に入った。慶応 4 年（1868）7 月、会津、庄内の両藩は戦費調達のため、北海道をプロイセン（現・ドイツ）に売却した。契約文書では『99 年間貸借条約』となっているが、当時の契約文書の語法として事実上の売却を意味していたとされる。プロイセン宰相ビスマルクは、初めは局外中立を保って一度は拒否したが、3 週間後に考えを改め「承諾書」を送った。横浜にいた駐日プロイセン公使マックス・フォン・ブラントが書いた外交書簡によれば、貸与期間は具体的に「ヘンリー・シュネル（当時東北にいたプロイセン人の仲介役で日本名・平松武兵衛）が、借り入れに対して蝦夷地の領地を 99 年間、担保として与えるとする会津藩主松平容保・庄内藩主酒井忠篤の全権委任状を持ってきた。百平方ドイツマイル（5,625 平方キロメートル）の土地を得るのに 30 万メキシコ・ドルで充分であろう」と記されている。（『駐日公使発本国向け外交書簡』ベルリン連邦文書館蔵）プロイセンからの返書が日本に届いたのは、会津が落城して一週間後のことであったため、有耶無耶となったが、板垣が早期決戦を挑まず会津戦争が長期戦となっていたならば、北海道の広範囲はドイツ領となっていたであろう。

無耶となった<sup>2</sup>。

●同時期に榎本武揚がポルトガルと結んだ「ガルトネル開墾条約」では五稜郭落城の一週間前に発効されてしまった為に、蝦夷地の一部が治外法権の領土となってしまう、明治政府がその後苦心して違約金を払い買い戻している<sup>3</sup>。幕末には鎖国をやめるべきかの「開港問題」で「勅許の有無」が大問題となったが、この広大な領土の割譲は、もとより勅許の有無など完全に無視した両藩の独断。いかに切迫した理由があったにせよ、勤皇の立場からは許し難い大罪であった。しかしながら、板垣はその罪を糾弾せず寧ろ藩主らの助命を嘆願した。それは来るべき日本を列強の侵略から守るにあたって**日本国民の思想的断を招いてはならない**と判断したからである。北海道の広大な土地が海外の領土とならずに今あるのは、土佐藩兵が急ぎに急いで会津を落城させた尽力によるものであることは言を俟たない。

●戊辰の話になるとよく「官軍が遺体埋葬を禁止した」という怨み節を述べる人がいる。しかし、土佐藩の名誉のために申し上げると、これは、フィクションであって史実ではない。平成 28 年（2016）12 月、会津若松市で発見された『戦死屍取仕末金銭入用帳』<sup>せんしかばねとりしまつきんせんにりようちよう</sup>によれば、明治新政府は会津藩降伏の十日後にあたる旧暦十月二日に埋葬を命令しており、翌日の 10 月 3 日から同 17 日にかけて、会津藩士 4 人が指揮し、会津城（鶴ヶ城）郭内外などにあった 567 体の遺体を発見場所周辺の寺や墓など市内 64 カ所に集めて埋葬したこと、埋葬経費は 74 両（現在の約 450 万円）、のべ 384 人が動員され、一人当たり 1 日 2 朱（同 7500 円）が支給されたこと、発見当時の服装や遺体の状態などが克明に記されており、「戊辰戦争で戦死した会津藩士の遺体が半年間、野ざらしにされた」という禁止令は史実ではない。

## 10.板垣の遺した言葉

●日本は侵略国家にあらず ●社会主義の脅威(左翼主義の蔓延を警戒) ●欧米の心術<sup>プロパガンダ</sup>に惑わされるな

## 11.最後に。

●戊辰戦争のことを得てして「勝てば官軍」という言葉でまとめ、正邪の境界を曖昧にする人がいるが、それは**護國のために忠を盡して亡くなられた英霊に対して不敬な言葉**ではないのかと感じる。真に勤皇を貫いたのは誰だったのか、『**板垣死すとも自由は死せず**』という言葉が著名ですが、その一言だけでは語り盡せない真の【板垣退助・板垣精神】を知って頂ければと考えております。

<sup>2</sup> 【会津藩集団海外逃亡未遂事件】「若松コロニー(入植地)」の所在地アメリカ合衆国カリフォルニア州エルドラド郡ゴールド・ヒル。1868 年、戊辰戦争に敗戦の色濃厚となった会津藩士らは、商人ジョン・ヘンリー・シュネルを介し米国の土地を購入し海外逃亡を計画したが、官軍に阻止され出航できず。翌 1869 年 5 月 20 日、移民船でサンフランシスコに到着した会津藩士とその家族、シュネルの妻らの一行は、ゴールドラッシュで栄えるゴールド・ヒルへ向かい農地を買い取り、会津藩士が入植した。しかし、1871 年 4 月、若松コロニーが行き詰まったスネルは見切りをつけ「コロニーの資金調達の為」と言い残し、日本人入植者達を残して逃亡。

<sup>3</sup> 【ガルトネル開墾条約事件】榎本武揚が率いる蝦夷共和国が 10 月末に箱館を占領し、ポルトガルに対し明治 2 年 2 月 19 日（1869 年 3 月 31 日）に「蝦夷地七重村開墾条約書」を無断で締結した。その内容は、七重村およびその近傍の約 300 万坪を 99 年間租借するというものであった。条約発効の 1 週間後に、榎本軍の降伏により蝦夷共和国は倒れたが、条約が 1 週間履行されてしまったため、この土地を足掛かりに蝦夷地が植民地化されるおそれもあることから、明治政府の外務省は 11 月、ガルトネル開墾条約の契約を破棄するよう伝えたが難航した。明治 3 年（1870）11 月、明治政府が 6 万 2500 両の違約金を支払うことでようやく契約を解消した。